

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学 者 読替先授業科目
哲学思想概論	古代哲学史(前篇)	2	荻原 理	3	前期木曜日2講時	
哲学思想概論	古代哲学史(後篇)	2	荻原 理	4	後期木曜日2講時	
哲学思想概論	近代イギリス哲学史	2	城戸 淳	3	前期月曜日4講時	
哲学思想概論	カント『純粋理性批判』 入門	2	城戸 淳	4	後期月曜日4講時	
現代哲学概論	近現代哲学の諸問題	2	直江 清隆	3	前期金曜日2講時	
現代哲学概論	応用倫理学の基礎	2	直江 清隆	4	後期金曜日2講時	
現代哲学概論	心の哲学入門	2	原 塑	3	前期水曜日4講時	
現代哲学概論	言語哲学入門	2	原 塑	4	後期水曜日4講時	
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(1)	2	荻原 理	3	前期水曜日3講時	
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン(2)	2	直江 清隆・城戸 淳	4	後期水曜日3講時	
哲学思想基礎講読	ヘーゲル『エンチュクロ ペデー』講読	2	嶺岸 佑亮	3	前期木曜日3講時	
哲学思想基礎講読	ヘーゲル『法哲学講義』 の良心論を読む	2	嶺岸 佑亮	4	後期木曜日3講時	
哲学思想各論	ニーチェの道徳批判	2	城戸 淳	5	前期木曜日2講時	
哲学思想各論	フッサールの時間論 その背景・展開・受容	2	村田 憲郎	集中(5)	集中講義	
哲学思想各論	表情・共同主観性の哲 学	2	直江 清隆	5	前期火曜日3講時	
生命環境倫理学各論	研究倫理の諸問題	2	原 塑	6	後期金曜日5講時	
哲学思想演習	現代功利主義研究	2	直江 清隆	6	後期火曜日3講時	
哲学思想演習	現象学研究	2	直江 清隆	5	前期火曜日5講時	
哲学思想演習	現象学研究	2	直江 清隆	6	後期火曜日5講時	
哲学思想演習	哲学のメソッド	2	原 塑	5	前期金曜日4講時	
哲学思想演習	記号論理学	2	原 塑	6	後期金曜日4講時	

哲学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
哲学思想演習	ネーゲル『コウモリであるとはどのようなことか』を読む	2	城戸 淳	6	後期木曜日2講時	
哲学思想演習	ニーチェ『善悪の彼岸』精読	2	森 一郎	5	前期金曜日3講時	
哲学思想演習	プラトン『テアイテス』を読む(1)	2	荻原 理	5	前期月曜日3講時	
哲学思想演習	プラトン『テアイテス』を読む(2)	2	荻原 理	6	後期月曜日3講時	
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	5	前期水曜日5講時	
哲学思想演習	カント『たんなる理性の限界内の宗教』研究	2	城戸 淳	6	後期水曜日5講時	
生命環境倫理学演習	研究倫理の哲学的基礎	2	原 壱	5	前期金曜日5講時	

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB34202, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代哲学史（前篇）

2. Course Title (授業題目)：History of Ancient Philosophy (Part 1)

3. 授業の目的と概要：・古代ギリシャ哲学のうち、ミレトス学派からプラトンまでの主な哲学者（ピュタゴラス、ヘラクレイトス、パルメニデス、ソクラテスも含む）の主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。

・講義だが、質問・意見を積極的に出してもらおう（質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので）。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回（以降）でもよい。

・希望者があれば、授業中にプレゼンテーションをしてもらう（数名まで）。希望者は事前に教員と相談しトピックを決め、発表内容のメモを作り教員のチェックを受け、画面共有で資料を示しながら 8 分ほどそのトピックについて説明し、皆からの質問を受け付ける。答えられなければ「わかりません」と言ってくればよい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The objective is to learn the basics about ancient Greek philosophy from Milesian School to Plato. Basically a lecture, but questions will be very welcome. Up to about four attendants can give a presentation to cover a portion of the material.

5. 学修の到達目標：・ミレトス学派からプラトンまでの西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。
・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to explain basic ideas of Greek philosophers from Milesians to Plato.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】

1. 授業全体へのイントロ

ミレトス学派 (1)：万物のアルケの探究

タレス、アナクシマン드로ス、アナクシメネス

2. ミレトス学派 (2)：アナクシマン드로スの断片

クセノファネス：神を擬人的に思い描くことへの批判

3. ピュタゴラス：万物は数から成る、魂は輪廻する

ヘラクレイトス：反対者は一致する

4. エレア派 (1)：パルメニデス

ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」（導入）

5. エレア派 (2)：ゼノンのパラドクス「アキレスは亀に追いつけない」（教室で議論）

6. エレア派 (3)：「アキレスは亀に追いつけない」（議論の続き、ゼノンの意図）ゼノンの弁証論

エレア派の挑戦に応える多元論者たち (1)：エンペドクレス

7. エレア派の挑戦に応える多元論者たち (2)：アナクサゴラス、デモクリトス

ソフィステス（プロタゴラス）、弁論家（ゴルギアス）

8. ソクラテスとプラトンへのイントロ：ソクラテスは書かなかった、プラトン対話篇で著者はどこにいるのか

ソクラテス (1)：プラトン『ソクラテスの弁明』を中心に

9. ソクラテス (2)：プラトン『ソクラテスの弁明』

・『クリトン』を中心に（続き）

10. 【以降の回で、プレゼンテーションが入ることがあり得る。】

プラトン (1)：『メノン』（探究のアポリア、想起説）など

11. プラトン (2)：『パイドン』（魂不死、イデア論）など

12. プラトン (3)：『国家』（ギュゲスの指輪、幸福と正義の関係）など

13. プラトン (4)：『国家』（善のイデア）など

14. プラトン (5)：論じ残したこと

15. 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の質問など、授業への参加：25%。期末レポートまたはプレゼンテーション：75%。

9. 教科書および参考書：

参考書：

加藤信朗『ギリシア哲学史』（東京大学出版会、1996 年）

内山勝利（責任編集）『哲学の歴史 1』（中央公論新社、2008 年）

それ以外の参考図書は随時授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。

（他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。）

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

予備知識は特に必要ない。

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB44203, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代哲学史（後篇）

2. Course Title (授業題目)：History of Ancient Philosophy (Part 2)

3. 授業の目的と概要：・古代ギリシャ哲学のうち、アリストテレス、ヘレニズム哲学、新プラトン主義の主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。

・講義だが、質問・意見を積極的に出してもらおう（質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので）。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回（以降）でもよい。

・希望者があれば、授業中にプレゼンテーションをしてもらう（数名まで）。希望者は事前に教員と相談しトピックを決め、発表内容のメモを作り教員のチェックを受け、画面共有で資料を示しながら 8 分ほどそのトピックについて説明し、皆からの質問を受け付ける。答えられなければ「わかりません」と言ってくればよい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The objective is to learn the basics about ancient Greek philosophy from Aristotle to Plotinus. Basically a lecture, but questions will be very welcome. Up to about four attendants can give a presentation to cover a portion of the material.

5. 学修の到達目標：・アリストテレス以降での西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。

・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to explain basic ideas of Greek philosophers from Aristotle to Plotinus.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【注意：質疑応答等の成り行きによっては、下記の計画通りに行かないことがあり得る。】

1. 授業全体へのイントロ

アリストテレス (1)：形相と質料

2. アリストテレス (2)：形相と質料

3. アリストテレス (3)：始動因

4. アリストテレス (4)：行為の目的論

5. アリストテレス (5)：自然の目的論

6. アリストテレス (6)：オルガノン

7. アリストテレス (7)：芸術論など

8. ヘレニズム哲学 (1)：ヘレニズム哲学へのイントロ

ヘレニズム哲学 (2)：主にエピクロス派

9. ヘレニズム哲学 (3)：主にエピクロス派

10. ヘレニズム哲学 (4)：エピクロス派とストア派

11. ヘレニズム哲学 (5)：主にストア派

12. ヘレニズム哲学 (6)：主にストア派

13. ヘレニズム哲学 (7)：懐疑主義

14. 新プラトン主義

15. 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の質問など、授業への参加：25%。期末レポートまたはプレゼンテーション：75%。

9. 教科書および参考書：

参考書：

内山勝利（責任編集）『哲学の歴史 1』（中央公論新社、2008 年）

内山勝利（責任編集）『哲学の歴史 2』（中央公論新社、2007 年）

A・A・ロング『ヘレニズム哲学』（京都大学学術出版会、2003 年）

それ以外の参考図書は随時授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。

（他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。）

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

予備知識は特に必要ない。

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB31402, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近代イギリス哲学史

2. Course Title (授業題目)：History of Modern British Philosophy

3. 授業の目的と概要： ベーコンからリードにいたる近代イギリス哲学史は、その思考の振幅の広がり、必然的な展開の過酷さの点で、これ以上ない哲学のスペクタクルのひとつである。近代イギリス哲学は、学問の大刷新をうたい、徹底的な唯物論から歩みだし、観念モデルの経験主義をへて、ときに純粋なスピリチュアリズムの形而上学へと陥りつつも、緩和された懐疑主義とコモン・センスへと収束した。その歩みを辿ることは、歴史的に繰り広げられた哲学的思考をあらためて追体験することになるだろう。

講義では、16 世紀から 18 世紀にかけての近代イギリスの哲学について、主要な哲学者の学説を検討しつつ、その歴史的な展開をたどる。また古代・中世哲学の遺産との関係、同時代のフランスやドイツの哲学との関係、現代にまで残された諸問題などにも論及する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The lectures will discuss the historical development of British philosophy in the modern period (roughly from the sixteenth to the eighteenth centuries), examining the theories of the major philosophers.

5. 学修の到達目標：近代イギリス哲学の諸論点を哲学的に考察する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：A philosophical examination of various issues in modern British philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 序論

2～3 ベーコン——学問の大刷新

4～5 ホッブズ——唯物論の形而上学

6 カドワースとモア——ケンブリッジ・プラトニストの哲学

7～8 ロック——経験主義の観念理論

9 補遺1 人格同一性をめぐる展開

10～11 バークリ——非物質論の形而上学

12 補遺2 人間本性への眼差し——イギリスの道徳哲学

13～14 ヒューム——懐疑主義と自然主義

15 リード——コモン・センスへの回帰

8. 成績評価方法：

数回のコメントと期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

授業中に紹介します。

10. 授業時間外学習：授業で紹介した哲学書などを自ら読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想概論／ Western Philosophical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB41403, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Kant's "Critique of Pure Reason"
3. 授業の目的と概要：『純粋理性批判』を理解せずに哲学を学んだと称するのは、あたかも山へ登らずに石清水八幡神社を拝んだと吹聴する仁和寺の法師のようなものであろう。とはいえ、本格的に『純粋理性批判』に登るのは年季がいる。この講義は、私が「先達」になって案内する『純粋理性批判』の名所巡りである。できるだけ歩きやすい入門的な講義をめざすが、もちろん少し踏みこめば難解な代物であることは覚悟してもらいたい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is an introductory lecture on Kant's "Critique of Pure Reason".
5. 学修の到達目標：カントの『純粋理性批判』の勘所を掴む。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To grasp the outline of Kant's Critique of Pure Reason.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 2つの序文（コペルニクスの転回）
 - 2 序論（アприオリな総合判断とは何か）
 - 3 超越論的感性論（空間・時間）
 - 4 カテゴリーの超越論的演繹
 - 5 図式論：カテゴリーから時間へ
 - 6 直観の公理と知覚の予料
 - 7 経験の類推 B 第二の類推（因果）
 - 8 観念論論駁
 - 9 超越論的仮象と理念
 - 10 誤謬推理論（魂の不死性）
 - 11 アンチノミー論（人間の自由）
 - 12 理想論（神の存在証明批判）
 - 13 純粋理性の訓練
 - 14 理性の究極目的
 - 15 『純粋理性批判』以後
（実際の講義ではテーマを絞って論じる。）
8. 成績評価方法：
数回のコメントと期末レポート。
9. 教科書および参考書：
教材はプリントで配付します。
10. 授業時間外学習：邦訳の『純粋理性批判』を手にとって、みずから読むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB35202, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代哲学の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues in Contemporary Philosophy

3. 授業の目的と概要：この授業では、近現代の大陸哲学の基本概念を学ぶ。その際、歴史順に概観するのではなく、「生命と生」「身体」「他者理解」などの重要な問題に沿って検討を進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course deals with the basic concepts of modern and contemporary continental philosophy, by picking up some important issues such as "life," "body/embodiment" "understanding others," and so on.

5. 学修の到達目標：現代哲学の意義について理解し、自分なりの考えを持てるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course provides students with opportunities to understand the importance of philosophical thinking. It is also designed to help students gain the perspective needed to describe it in their own words.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

現代哲学の話題について学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つける。哲学者としてはレーヴィット、ヘルダー、ヘーゲル、デイルタイ、ハイデガー、ガダマー、フッサールなどが取り上げられる予定です。

1. 哲学はなにではないのか
2. 懐疑と相対主義(1)
3. 懐疑と相対主義(2)
4. 身体という謎(1)
5. 身体という謎(2)
6. 世界と環境世界
7. 他者という謎(1)
8. 他者という謎(2)
9. 他者という謎(3)
10. 合理主義とロマン
11. 生活世界と学問(1)
12. 生活世界と学問(2)
13. 異なるもの理解(1)
14. 異なるもの理解(2)
12. 異なるもの理解(1)(1)(1)(1)
13. 異なるもの理解(2)
13. 言語、身体と社会(1)
14. 言語、身体と社会(2)
15. まとめ

【必要に応じて、一部内容・順番を差し替えることがあります。】

コメントメーバーにより、議論の要点と自分の考えを簡単にまとめるようにし、最終的には、レポートが書けるだけの能力を身につけられるようにします。また、今年の授業では毎回ワークシートを用意し、短いテキスト、そのテキストが書かれた背景、とのテキストで問われていること、テキストの主張、その主張に対する批判、現代の問題との繋がりでどう考えるかなどについて説明し、自ら考え、議論するようにします。

8. 成績評価方法：

平常点 30% レポートないし試験(問題は事前公開) 70%

9. 教科書および参考書：

参考書：新田義弘『哲学の歴史』(講談社現代新書) 授業で扱った事柄が同一位置にあるかを概観するのに便利。参考書は随時授業中に紹介します。

10. 授業時間外学習：授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、上記教科書で位置づけを理解し、自分なりに捉え直してみる作業を繰り返して下さい。

また、その内容に基づいて予習を指示することもあります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB45202, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：応用倫理学の基礎
2. Course Title (授業題目)：Issues in Bio- and Environmental Ethics
3. 授業の目的と概要：医療をはじめとする科学技術と人間の関わりをどう捉えるかは今日ますます重要な問いとなっている。この授業では応用倫理学の基本的な概念と原理を学ぶとともに、生命環境倫理学の主要問題を紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：How to understand the relationship between science, technology including medicine and human beings has become an increasingly important issue today. This course deals with the basic concepts and principles of applied ethics. It also explains some important issues of bio- and environmental ethics.
5. 学修の到達目標：応用倫理学の基本的な事項を理解し、生命環境倫理学の個別の問題に対して自分なりに考えることができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to :
 - Explain the essential concepts of applied ethics
 - Discuss the individual problems of bio- and environmental ethics.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

規範倫理学の基礎とともに、生命環境倫理学におけるその具体的あり方、現在の諸問題について順次検討する。基本的に講義とディスカッションで構成するが、必要に応じてビデオの使用、論文紹介を行う。

 - 1, はじめに：応用倫理学への招待
 - 2, 功利主義
 - 3, 義務論
 - 4, 徳倫理学
 - 5, 正義論
 - 6, 共感とケアの倫理
 - 7, 生命倫理(1) 生殖医療
 - 8, 生命倫理(2) 再生医療
 - 9, 生命倫理(3) 終末期医療
 - 10, 環境倫理(1) 世代間倫理
 - 11, 環境倫理(2) 環境正義
 - 12, 環境倫理(3) 生態系中心主義
 - 13, AI の倫理(1) リスクと予防原則
 - 14, AI の倫理(2)
 - 15, AI の倫理(3)

【最新のテーマを取り入れるため、一部内容を変更することがあります。】
8. 成績評価方法：

レポート 80% (授業中に実施する小レポートを含む) 授業への参加 20%
9. 教科書および参考書：

参考書：
赤林 朗他編『入門・医療倫理』Ⅰ～Ⅲ、勁草書房。
吉永明弘、寺本剛 編『環境倫理学』昭和堂。
ターケルバーク『AI の倫理学』(直江他訳) 丸善出版。
10. 授業時間外学習：上記テキストをもとに基本事項を解説するので必ず振りかえって見ていただきたい。生命倫理学や環境倫理学、AI の倫理学の文献はたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB33401, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心の哲学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Philosophy of Mind

3. 授業の目的と概要：心の哲学は 20 世紀半ば以降、英米圏を中心に大きく研究が進展してきた分野である。この授業では、心の哲学で展開された議論を紹介しながら、心の様々な性質—心の因果性、現象的意識、心の志向性、心の合理性—を順に分析していく。講義形式で授業を行うが、学期中数回、演習問題ととりくんでもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In the course, various properties of the mind will be discussed such as causality of the mind, phenomenal consciousness, intentionality, and rationality, while introducing the arguments developed in the philosophy of mind.

5. 学修の到達目標：1. 概念や論証を分析する技術を習得する。

2. 心や意識についての現代的議論を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To acquire the skills to analyze concepts and arguments.

2. To understand modern discussions about mind and consciousness.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン、同期・非同期併用型授業として実施する。

学期を通じた授業の構成は以下の通りである。

1. はじめに
2. 心の因果性 1
3. 心の因果性 2
4. 心の因果性 3
5. 心と意識 1
6. 心と意識 2
7. 心と意識 3
8. 心の志向性 1
9. 心の志向性 2
10. 心の志向性 3
11. 心の合理性 1
12. 心の合理性 2
13. 心の合理性 3
14. 心に関する諸問題
15. まとめ

8. 成績評価方法：

課題の提出 (60%)、テスト (40%)

9. 教科書および参考書：

金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、2007 年

10. 授業時間外学習：授業用スライドを、あらかじめ ISTU にアップロードしておくので、授業前に内容を確認しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：現代哲学概論／ Contemporary Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB43402, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語哲学入門
2. Course Title (授業題目)：Philosophy of Language
3. 授業の目的と概要：20 世紀以降、英米圏を中心に展開している分析哲学は、哲学的問題への取り組みが言語を用いてなされていることに着目し、言語の働きを分析することで哲学的問題に答えようとする。このため、分析哲学では、言語の基礎的現象、例えば、言語表現が何かを指示したり、意味したりすることができるのはなぜかを明らかにすることが重要な課題となった。この講義では、言語の指示や意味、あるいは発話の理解といったテーマに関して、分析哲学で行われてきた議論を概観する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture reviews the discussions that have been conducted in analytical philosophy on topics such as reference and meaning.
5. 学修の到達目標：1. 概念や論証を分析する技術を習得する。
2. 指示や意味についての哲学的議論を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To acquire the skills to analyze concepts and arguments.
2. To understand philosophical arguments about reference and meaning.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目は、オンライン、同期・非同期併用型授業として実施する。
以下の項目を順番に講義する。
 1. はじめに
 2. 指示と意味
 3. 記述の理論 1
 4. 記述の理論 2
 5. 固有名 1
 6. 固有名 2
 7. 様々な真理概念 1
 8. 様々な真理概念 2
 9. 可能世界 1
 10. 可能世界 2
 11. 名指しと必然性 1
 12. 名指しと必然性 2
 13. 検証主義
 14. 真理条件説
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
課題の提出 (60%)、テスト (40%)
9. 教科書および参考書：
服部裕幸『言語哲学入門』2003 年、勁草書房
Papineau, D. 2012. Philosophical Devices: Proofs, Probabilities, Possibilities, and Sets. Oxford University Press.
10. 授業時間外学習：授業教材は、Google Classroom の授業用サイトにアップロードされます。授業内容を理解するために参考書を見てみてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB33303, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究のレッスン (1)
2. Course Title (授業題目)：Western Philosophical Thought (Introductory Reading)
3. 授業の目的と概要：この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。
最初の 10 回程度は、教員が選んだテキストをもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。倫理学の村山先生と哲学の荻原が、ほぼ半分ずつ担当します。また、最後の 5 回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read a couple of chapters from introductory texts of philosophy and ethics. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessions previously appointed participants will give a presentation on the topic of their choosing and then all of us will discuss it.
5. 学修の到達目標：(1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。
(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Become able to understand and discuss texts of ethics.
Become able to find and discuss topics in ethics.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ガイダンス
2. 倫理学の入門的テキストの講読(1)
3. 倫理学の入門的テキストの講読(2)
4. 倫理学の入門的テキストの講読(3)
5. 倫理学の入門的テキストの講読(4)
6. 倫理学の入門的テキストの講読(5)
7. 哲学の入門的テキストの講読(1)
8. 哲学の入門的テキストの講読(2)
9. 哲学の入門的テキストの講読(3)
10. 哲学の入門的テキストの講読(4)
11. 哲学の入門的テキストの講読(5)
12. 発表と討論(1)
13. 発表と討論(2)
14. 発表と討論(3)
15. 発表と討論(4)
8. 成績評価方法：
報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。
9. 教科書および参考書：
必要なものは配布します。
参考書は演習内で指示します。
10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにして下さい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。
哲学専修の 2 年生はこの水 3 の授業を必ず履修するようにしてください。他の専修の方は事前または初回時に教員とご相談ください。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：直江 清隆・城戸 淳

コード：LB43303, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究のレッスン (2)
2. Course Title (授業題目)：Philosophy for Beginners 2
3. 授業の目的と概要： この授業は前期の「哲学研究のレッスン (1)」の続編です。哲学専修の2年生は前期・後期ともに履修して下さい。(倫理学専修の方は倫理思想基礎講読をご覧下さい。) この授業の目的は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論について発表し、討論する力を身につけることです。前半は英語のテキストについて、担当者が担当箇所の訳読や要約を発表します。後半は、担当者がみずから選んだテーマについて発表してもらいます。なお、前期・後期を通じて1人1回は自由テーマで発表してもらうので、後期は前期に割り当てられなかった方の担当です。後期に発表をしない人も、期末レポートを提出することになります。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： The aim of this course is to give students the ability to read, present and discuss the literature of philosophy and ethics. The first half of the course consists of reading philosophical texts in English. In the second half of the course, students will give a presentation on a topic of their own choice.
5. 学修の到達目標：(1) 哲学の文献を読み、議論をまとめ、発表・討論する能力を身につける。(2) 哲学の文献を踏まえて、自分の問題関心にそって探究する力を体得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)： Become able to understand and discuss philosophical texts written in English. Become able to find and explore philosophical topics.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 - 2～9. 英語による哲学基礎文献の講読・発表
 - 10～15. 発表と討論(参加者の人数などにより、内容を変更することがある。)
8. 成績評価方法： 英語テキストの報告や討論 (50%)。後半の発表、ないし学期末レポート (50%)。
9. 教科書および参考書： 授業のなかで説明する。
10. 授業時間外学習： 英語テキストを読む回では、予習を欠かさないこと。発表の際は、担当者は事前に教員およびTAに相談し、アドバイスを受けてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
哲学・倫理学以外の学生、または3年生以上の学生が受講を希望する場合は、事前に担当教員に相談すること。

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB34303, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヘーゲル『エンチクロペディー』講読

2. Course Title (授業題目)：Reading Hegel's "Enzyklopädie der philosophischen Wissenschaften"

3. 授業の目的と概要：この授業では、近代ドイツの哲学者である G. W. F. ヘーゲルの『エンチクロペディー』第 3 版 (1830) をドイツ語原典で精読します。このテキストは哲学への入門用に講義の手引きとして書かれており、文章が簡潔であるためかなり読みやすいといえます。そこで議論されているのは、近代哲学特有の問題であり、その全体的な見通しを得るために非常に有効です。テキストを実際に原典で読解することを通じて、近代哲学特有の論点や方法について視座を獲得することを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We are going to read Hegel's Enzyklopädie der Philosophischen Wissenschaften (3rd edition, 1830) in original German text. This book is written for the introducing lecture to gain the general viewpoint of the philosophical system, so that it is easier to read. However, Hegel shows here the crucial points for the modern philosophy and the so-called German Idealism, especially for its metaphysical and ontological problems. By reading and discussing this text, we will attain the foundation to understand the typical topics and manner of the modern philosophy.

5. 学修の到達目標：・ドイツ語で書かれたテキストを自分で読むことが出来るようになる。

・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.

・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：イントロダクション (授業内容・方法の説明、今後の進め方の確認)

第 2 回：「序論」の精読 (1)

第 3 回：「序論」の精読 (2)

第 4 回：「序論」の精読 (3)

第 5 回：「序論」の精読 (4)

第 6 回：「予備概念 A.」の精読 (1)

第 7 回：「予備概念 A.」の精読 (2)

第 8 回：「予備概念 A.」の精読 (3)

第 9 回：「予備概念 B.」の精読 (1)

第 10 回：「予備概念 B.」の精読 (2)

第 11 回：「予備概念 B.」の精読 (3)

第 12 回：「予備概念 B.」の精読 (4)

第 13 回：「予備概念 B.」の精読 (5)

第 14 回：「予備概念 B.」の精読 (6)

第 15 回：全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席および平常点 (毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加)

9. 教科書および参考書：

テキストはコピーを配布します。以下を使用予定です。G. W. F. Hegel, Enzyklopädie der philosophischen Wissenschaften (1830), Hamburg 1991.

10. 授業時間外学習：各回の予習として、1 頁程度の予習が必要です [Students are required to prepare 1 page for each class]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想基礎講読／ Western Philosophical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB44302, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヘーゲル『法哲学講義』の良心論を読む

2. Course Title (授業題目)：Reading Hegel's theory of the conscience in "Vorlesungen über die Philosophie des Rechts"

3. 授業の目的と概要： この授業では、G. W. F. ヘーゲルがベルリン大学で行った「法哲学講義」のうち、1824/25年度の講義における良心論を精読します。このテキストはヘーゲル自身の手によるものではなく、聴講生であるグリースハイムによる筆記録です。そのため、ヘーゲル自身のテキストに比べてかなり読みやすいです。

良心の問題は道徳と宗教の間を理解する上で重要であるだけでなく、ヘーゲルの中心思想である絶対精神や純粋な知の形成過程を知る上で極めて重要です。ヘーゲルの良心論を読み解くことで、近代ドイツ哲学の特有な点を理解することが出来るようになります。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： We are going to read Hegel's theory of the conscience in the Vorlesungen über die Philosophie des Rechts of 1824/25 in original German text. This text is a note form Hegel's lecture in Berlin University, which is written by one of his students, names Griesheim.

The problem of conscience is the key to understand the relation between the moral and the religion, and more, to realize why Hegel must develop his theory of the absolut spirit (der absolute Geist) qua the pure science (das reine Wissen).

5. 学修の到達目標： ・ドイツ語で書かれたテキストを自分で読むことが出来るようになる。

・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)： ・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.

・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション (授業内容・方法の説明、今後の進め方の確認)

第2回：道徳をめぐる理解について (1)

第3回：道徳をめぐる理解について (2)

第4回：道徳をめぐる理解について (3)

第5回：道徳をめぐる理解について (4)

第6回：善とは何か (1)

第7回：善とは何か (2)

第8回：善とは何か (3)

第9回：内面と確信 (1)

第10回：内面と確信 (2)

第11回：内面と確信 (3)

第12回：〈知〉としての良心 (1)

第13回：〈知〉としての良心 (2)

第14回：〈知〉としての良心 (3)

第15回：全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席および平常点 (毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加)

9. 教科書および参考書：

テキストはコピーを配布します。以下を使用予定です。G. W. F. Hegel, Vorlesungen über die Philosophie des Rechts III. Nachschriften zu den Kollegien der Jahre 1824/25 und 1831, Hamburg 2015.

10. 授業時間外学習：各回の予習として、1頁程度の予習が必要です [Students are required to prepare 1 page for each class]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB54204, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ニーチェの道德批判

2. Course Title (授業題目) : Nietzsche's Critique of Morality

3. 授業の目的と概要： ニーチェの道德批判について考察する。19 世紀末にニーチェが提起したキリスト教道德に対する系譜学的な批判は、いわば不発弾のまま、21 世紀のわれわれの曖昧な道德意識に突きつけられているように思われる。この講義では、拙著『ニーチェ——道德批判の哲学』に基づいて、(1) ニーチェの歴史哲学(系譜学)の形成を辿ったあと、(2) 『道德の系譜学』の諸論点に立ち入って解釈し、(3) 遠近法主義、生の価値、永遠回帰などの諸論点に触れながらニーチェの道德批判の射程を探る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this lecture we will discuss Nietzsche's critique of morality. On the basis of my book on this theme, I will (1) trace the developmental formation of Nietzsche's philosophy of history (genealogy), (2) discuss the interpretative problems of the "On the Genealogy of Morality", and (3) explore the philosophical scope of Nietzsche's critique.

5. 学修の到達目標：ニーチェの道德批判の概要を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To get an overview of Nietzsche's critique of morality.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 問題提起——なぜ道德を批判するのか
- 2 若きニーチェにおける古典文献学と歴史
- 3 系譜学の方法の形成
- 4 『道德の系譜学』へ——序論を読む
- 5 第一論文(1) ——イギリスの心理学者と貴族的価値評価
- 6 第一論文(2) ——ルサンチマンによる価値転換
- 7 第一論文(3) ——ルサンチマンにおける自己欺瞞
- 8 第二論文(1) ——よい良心と疚しい良心
- 9 第二論文(2) ——内攻的残虐さから神に対する罪へ
- 10 第三論文(1) ——禁欲主義の理想
- 11 第三論文(2) ——キリスト教の自己超克
- 12 ニーチェの道德批判と生の価値の問題
- 13 ヨーロッパのニヒリズム
- 14 道德の遠近法と歴史
- 15 永遠回帰の肯定的理解へ

8. 成績評価方法：

数回の小レポートと期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

城戸淳『ニーチェ——道德批判の哲学』(極限の思想)、講談社、2021年(ISBN: 9784065239490)。
(生協に入荷しています)

10. 授業時間外学習：ニーチェの著作(とりわけ『道德の系譜学』)を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：5 単位数：2

担当教員：村田 憲郎

コード：LB98813, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フッサールの時間論 その背景・展開・受容

2. Course Title (授業題目) : Husserl's Theory of Time; its Background, Development, and Reception

3. 授業の目的と概要：本講義では、エトムント・フッサールの現象学のなかから、とりわけ時間意識の現象学の議論を発展史的・問題史的に包括的に紹介します。まず、フッサールの時間論が、その母体であるブレンターノ学派を背景として、どのように成立してきたか、次に、時間論が彼の哲学全体との関連のなかで初期・中期・後期とどのような展開を遂げてきたか、最後に、彼の時間論が、ポスト・フッサールの現象学において、および現代の時間経験の哲学において、どのように受容されているか、を扱います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, I will introduce to the Phenomenology of Edmund Husserl, especially to his Phenomenology of Time-Consciousness, comprehensively in terms of the development of its problematique. It will be treated at first how Husserl's theory of time was founded against the backdrop of the philosophies of Brentano School, then secondly how it developed, stepping on the early, the middle, and the last stage, in accordance with his total system of phenomenology, and thirdly, how it was received into the context of post-Husserlian phenomenologies, then of the contemporary philosophy of temporal experience.

5. 学修の到達目標：フッサールの時間意識の現象学をモデルケースとして、ある哲学の理論が固有の歴史的な脈の中で成立・発展・受容されるあり方と、その理論がもつ現代的な意義を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students understand, by means of Husserl's Phenomenology of Time-Consciousness as a model case, how a philosophical theory is founded, developed, and received in its own historical context, and its actual significance.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) 導入
- 2) 背景 I：ブレンターノの記述の心理学：心的現象の分類、心の部分論
- 3) 背景 II：ブレンターノ学派の諸相（マイノング、エーレンフェルス）と初期フッサール
- 4) 『算術の哲学』と『論理学研究』（数の起源としての「集合的結合」、知覚することと体験すること、志向と充実化）
- 5) 『内的時間意識の現象学』のテキスト成立事情：1904/5年の「時間講義」と E. シュタイン編集版の内容的相違
- 6) 初期時間論 I：ブレンターノの「根源的連合説」批判と継起の知覚
- 7) 初期時間論 II：時間論の基礎：統握-内容図式、時間図表、三層構造と相関性、方法論
- 8) 初期時間論 III：再想起と把持、二重の志向性、時間を構成する流れ、先反省的自己意識
- 9) 初期時間論と『イデー I』：事物／体験の区別と現象学的還元
- 10) 中期時間論『ベルナウ草稿』：予持、発生的諸層、受動的再想起
- 11) 『ベルナウ草稿』と『受動的総合の分析』：時間論と発生的現象学、意識流の即自の構成
- 12) 後期時間論『C草稿』：徹底化された還元、自我の反省の問題、生誕・眠り・死、衝動志向性、歴史と目的論
- 13) その後の受容 I：ポスト・フッサールの現象学：フィンク、ハイデガーとデリダ、アンリ、レヴィナス
- 14) その後の受容 II：時間経験の哲学：知覚の哲学との関連、ポスト・ディクション／プレディクション、「流れ」の問題
- 15) 総括

8. 成績評価方法：

各実施日のリアクション・ペーパー [10%]

講義中に扱った、あるいは関連するトピックについてのレポート [90%]

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布し、また参考文献の参照指示を行う。

10. 授業時間外学習：講義の内容についてあらかじめ調べられることは調べておく。また、配布資料の内容について適宜復習し、必要な場合には質問する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想各論／ Western Philosophical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB52306, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：表情・共同主観性の哲学

2. Course Title (授業題目)：Philosophy of expression and intersubjectivity

3. 授業の目的と概要：廣松渉は戦後を代表する哲学者の 1 人である。その独自の哲学は、関係の第一次性、事的世界観、四肢構造、共同主観性などのキー概念で知られる。本講義では廣松哲学における表情、間主観性の問題を取りあげ、その現代的な意義を検討する。背景となるドイツ哲学と関連付けながら、20 世紀後半の日本哲学の動向を理解することも併せて追究する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Wataru Hiromatsu is one of the leading philosophers of the postwar era Japan. His original philosophy is known for key concepts such as relationism-Weltanschauung, four-fold structure formation, intersubjectivity and so on. In this lecture, we will take up the issues of expression and intersubjectivity in Hiromatsu's philosophy and examine their contemporary significance. We will also pursue the understanding of the trend of Japanese philosophy in the latter half of the 20th century in relation to the German philosophy.

5. 学修の到達目標：表情論、間主観性論の基本的な問題を説明することができる。

廣松哲学の基礎概念の特質と現在の意義について論じることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the fundamental philosophical issues of expression and intersubjectivity
・ Discuss the characteristics and contemporary significance of Hiromatsu's philosophy

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下のプランをもとに講義を進める。(ただし講義の進みぐあい、受講者の関心などに応じて順序や同一テーマの回数などを変えることがある。)

講義ではあるが、必要に応じて原著のコピーを配布し、読解する。

第 1 回 20 世紀哲学と廣松哲学/『存在と意味』の体系構想

第 2 回 現相的世界と四肢構造論① マッハとの対質

第 3 回 現相的世界と四肢構造論②

第 4 回 表情的世界と共同主観性①

第 5 回 表情的世界と共同主観性②

第 6 回 当事者意識と学知的反省

第 7 回 判断論の問題構成① 新カント学派

第 8 回 判断論の問題構成② 対象論など

第 9 回 関数概念と関係主義① 「もの」から「こと」へ

第 10 回 関数概念と関係主義② 科学論

第 11 回 言語的世界と記号論

第 12 回 役割行為論

第 13 回 物象化論の射程①

第 14 回 物象化論の射程②

第 15 回 近代の超克？

8. 成績評価方法：

レポート 80%、授業への参加度 20%

9. 教科書および参考書：

廣松渉『世界の共同主観的存在構造』岩波文庫、同『事的世界観への前哨』ちくま学芸文庫、同『表情』弘文堂、同『もの、こと、ことば』ちくま学芸文庫など。

10. 授業時間外学習：関連する参考図書、関連図書などを利用して、授業で取りあげたトピックスについて自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：生命環境倫理学各論／ Bio-Environmental Ethics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB65501, 科目ナンバリング：LHM-PHI306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究倫理の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Problems of Research Ethics
3. 授業の目的と概要：この授業では、科学研究への倫理的規制を検討する狭義の研究倫理と、研究不正の防止方法を考察する研究公正という二つの内容を扱います。自然科学・人文社会科学の研究成果は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、その一方で、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、あるいは、人々を誤った仕方です導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行う責任を負っています。この授業では、よい研究者になるために、どのような仕方である望ましいのか、また望ましくないのかということと、その根拠を学びます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class deals with two topics: research ethics in the narrow sense, which examines ethical restrictions on biomedical science research, and research integrity, which considers ways to prevent research fraud.
5. 学修の到達目標：1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深める。
2. 研究不正のさまざまな種類を理解し、なぜそのような不正行為が望ましくないのかを説明できるようになる。
3. 不正行為が発生する状況を理解し、責任ある研究者にふさわしい判断を下せるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To deepen your awareness of the responsibility of the researcher.
2. To understand the different types of research fraud and explain why such fraud is undesirable.
3. To understand the circumstances in which fraudulent activity occurs and be able to
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業は講義形式で、以下の内容を扱います。1 3 回目以降の授業では、研究倫理に関わる新しい問題を、論文や資料を使いながら、検討します。実施方法はオンライン同期型です。
 1. イントロダクション
 2. 人を対象とする研究の倫理
 3. フィールドワークの倫理
 4. 文献研究の倫理
 5. 学術コミュニケーションの倫理 1
 6. 学術コミュニケーションの倫理 2
 7. 学術コミュニケーションの倫理 3
 8. 研究公正概観
 9. ピア・レビュー
 - 1 1. 再現性
 - 1 2. 軍事研究
 - 1 3～1 5. 研究倫理の新しい問題
8. 成績評価方法：
出席し、課題を提出する (60%)、レポート (40%)
9. 教科書および参考書：
なし
- 1 0. 授業時間外学習：授業中に配布する資料をよく読んでおいてください。
- 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
- 1 2. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB62307, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代功利主義研究
2. Course Title (授業題目)：Seminar on contemporary utilitarianism
3. 授業の目的と概要：現在の規範倫理学、応用倫理学における有力な立場である功利主義の文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read the basic literature on contemporary utilitarianism and help students to acquire an understanding of the fundamental principles of utilitarianism.
5. 学修の到達目標：・現代功利主義の基本概念について説明をすることができる。
・現代功利主義に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the essential concepts of contemporary utilitarianism
・Discuss the fundamental issues in contemporary utilitarianism
7. 授業の内容・方法と進度予定：
カタジナ・デ・ラザリ=ラデク, ピーター・シンガー『功利主義とは何か』(Lazari-Radek, Katarzyna de and Singer, Peter) Utilitarianism: a very short introduction, 2017)を手がかりに、関連する1～2の論文を取りあげ、議論する。(後半で取りあげる論文には、Hare, R. M. (2012) A Utilitarian Approach, Kuhse, Helga and Singer, Peter(ed) (2012) A Companion to Bioethics, Second Edition, pp. 85-90, Wiley-Blackwell. あたりも候補になる。)
- 1, オリエンテーション
- 2, 功利主義の起源
- 3, 功利主義における正当化(1)
- 4, 功利主義における正当化(2)
- 5, 最大化とは(1)
- 6, 最大化とは(2)
- 7, 反論
- 8, 規則
- 9, 功利主義の実践
- 10, 論文読解(1)
- 11, 論文読解(2)
- 12, 論文読解(3)
- 13, 論文読解(4)
- 14, 論文読解(5)
- 15, まとめ
8. 成績評価方法：
レポート(報告を含む) 80% 授業への参加(討論) 20%
9. 教科書および参考書：
教科書 カタジナ・デ・ラザリ=ラデク, ピーター・シンガー『功利主義とは何か』森村進, 森村たまき訳、岩波書店, 2018.(Lazari-Radek, Katarzyna de and Singer, Peter) Utilitarianism: a very short introduction, 2017)、ほかの使用文献(日、英)は適宜配布する。
10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB52506, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの『イデーⅡ』（構成についての現象学的研究）を読み、現象学的な知覚、身体、自我などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read Husserl's "Ideas II" (Studies in the Phenomenology of Constitution) and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of phenomenological theory of perception, embodiment, ego.

5. 学修の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、身体、自我の役割について論じることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to：

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of perception, embodiment, ego in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『イデーⅡ』（純粹現象学と現象学的哲学のための諸構想）は 20 世紀の最も重要な哲学書の一つに数えられる。『イデーⅠ』で現象学的還元やノエシス・ノエマの構造についてプログラムの考察を行った後、本書『イデーⅡ』では、「構成についての現象学的研究」として、「自然と精神」に関わる幾つかの重要な問題について具体的な分析が行われる。その哲学・思想への影響は広範囲に及ぶ。

この授業では現象学について概括的な紹介をしたのち、本書の議論をていねいに読み解きながら、知覚、身体、自我といった問題についてのフッサールの議論を検討する。原文はドイツ語であるが、すぐれた英訳や、訳註と解説がついた日本語訳も出ている。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めるが、同時にこの概念の問題性について議論する。

1、イントロダクション 現象学とは

2、『イデーⅡ』における現象学的還元

3、『イデーⅡ』における志向性の問題

4、「構成についての現象学的研究」読解（1）

5、「構成についての現象学的研究」読解（2）

6、「構成についての現象学的研究」読解（3）

7、「構成についての現象学的研究」読解（4）

8、中間まとめ 間主観的な現実としての自然の構成について

9、「構成についての現象学的研究」読解（6）

10、「構成についての現象学的研究」読解（7）

11、「構成についての現象学的研究」読解（8）

12、「構成についての現象学的研究」読解（9）

13、「構成についての現象学的研究」読解（10）

14、「構成についての現象学的研究」読解（11）

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Ideen", Zweiter Band(Husserliana IV), (Ideas", Second Book) (『イデーⅡ-1』立松弘孝ほか訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

欧文の参考書 (例えば、Nenon, Thomas, Issues in Husserl's Ideas Ii (Contributions to Phenomenology) (Contributi

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LB62505, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目) : Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの『イデーⅡ』（構成についての現象学的研究）を読み、現象学的な知覚、身体、自我などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The aim of this course is to read Husserl's "Ideas II" (Studies in the Phenomenology of Constitution) and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of phenomenological theory of perception, embodiment, ego.

5. 学修の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、身体、自我の役割について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標) : After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of perception, embodiment, ego in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に続き、『イデーⅡ』を読んで議論する。

1、前期の授業の復習：『イデーⅡ』における自然的世界の構成

2、「構成についての現象学的研究」読解（1）

3、「構成についての現象学的研究」読解（2）

4、「構成についての現象学的研究」読解（3）

5、「構成についての現象学的研究」読解（4）

6、中間まとめ1 知覚、キネステーゼについて

7、「構成についての現象学的研究」読解（5）

8、「構成についての現象学的研究」読解（6）

9、「構成についての現象学的研究」読解（7）

10、「構成についての現象学的研究」読解（8）

11、中間まとめ1 純粹自我について

12、「構成についての現象学的研究」読解（9）

13、「構成についての現象学的研究」読解（10）

14、「構成についての現象学的研究」読解（11）

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Ideen", Zweiter Band (Husserliana IV), (Ideas", Second Book) (『イデーⅡ-1』立松弘孝ほか訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

欧文の参考書（例えば、Nenon, Thomas, Issues in Husserl's Ideas Ii (Contributions to Phenomenology) (Contributi

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB55407, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学のメソッド

2. Course Title (授業題目)：How to Write a Philosophy Paper

3. 授業の目的と概要：哲学で論文を執筆するのは難しい。論文を執筆するためには、テーマを決め、そのテーマに関連する文献を集め、それらを読解し、議論状況を確認した後で、いままでの議論には見られない著者独自の視点をもつ議論を組み立てなければならない。だが、特にどのようなテーマで、またどのような仕方でも議論を組み立てれば、著者独自で、〈哲学〉らしい研究になるのだろうか。

この授業では、哲学研究の方法、特に文献の読解・解釈の方法を演習を通じて学ぶ。また、同時並行して、受講者各人に、卒論・修論を執筆するとして、どのようなテーマについて、どのように論じたいかを考えてもらい、その内容を学期の後半の授業中、発表してもらい、受講者全員で討論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, you will learn how to write a philosophical paper through exercises.

5. 学修の到達目標：1. 哲学論文の分析方法に習熟する。

2. 研究テーマを見つけ、テーマに関連する文献を調査し、著者独自の議論を組み立てることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. You will be familiar with philosophical methods

2. You will be able to find research themes, examine the literature related to the themes, and make up your own discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン、同期・非同期併用授業として実施する。

学期全体の授業構成は以下を予定している。

1. イントロダクション

2～6. 哲学研究方法論演習

7～9. 文献のまとめ方演習

10～15. 卒論・修論構想発表

8. 成績評価方法：

授業中の課題に取り組む (60%)、研究発表 (40%)

9. 教科書および参考書：

佐々木健一『論文ゼミナール』2014 年、東京大学出版会

戸田山和久『新版 論文教室—レポートから卒論まで』2012 年、NHK 出版会

10. 授業時間外学習：論文執筆を目的として授業時に課される課題と取り組む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業の具体的な進め方については初回授業時に説明する。

この授業は基本的には哲学専修・倫理学専修 3 年次の学生向けであるが、哲学・倫理学を専門とする博士前期課程大学院生も出席してもよい。ただ、この授業を受講することで、毎週月曜 5 限に実施している演習を代替することはできない。また、他の分野を専門とする大学院生で、この授業を受講することを希望する者は授業担当教員に相談すること。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：原 壱

コード：LB65406, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：記号論理学

2. Course Title (授業題目) : Formal Logic

3. 授業の目的と概要：一階述語論理の言語に習熟するとともに、タブローによる妥当性のチェック方法を学び、そのスキルを使用して日本語による推論の妥当性を検討できるようにすることがこの授業の目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The purpose of this lesson is to learn the language of first-order logic, learn how to check the validity of a tableau, and use that skill to examine the validity of inference in Japanese.

5. 学修の到達目標：1. 記号論理学の背景にある基本的な考え方、概念を理解する。

2. 記号の操作法を身につける。

3. 日本語の推論の妥当性を検討する能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : 1. Understand the basic concepts of formal logic.

2. Learn how to operate symbols.

3. To acquire the ability to examine the validity of inference in Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目はオンライン、同期授業として実施する。

学期を通じた授業の構成として以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 記号について
3. 命題について
4. 命題の意味
5. 推論の妥当性
6. タブロー 1
7. タブロー 2
8. 多重量化
9. 自然言語から型式言語への翻訳
10. 数の数え方
11. 日本語による推論の妥当性 1
12. 日本語による推論の妥当性 2
13. 日本語による推論の妥当性 3
14. タブローの健全性と完全性
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する (60%)、テスト (40%)

9. 教科書および参考書：

加藤浩、土屋俊『記号論理学』放送大学教育振興会、2014 年

丹治信春『論理学入門』筑摩書房、2014 年

10. 授業時間外学習：自宅で、テキストを予習し、課題と取り組むこと

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB64208, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ネーゲル『コウモリであるとはどのようなことか』を読む
2. Course Title (授業題目)：Nagel's "Mortal Questions"
3. 授業の目的と概要：トマス・ネーゲル『コウモリであるとはどのようなことか』(邦訳)を読む(原典は Thomas Nagel, Mortal Questions, Cambridge University Press, 1979)。人間がふだんの生活のなかで出会う切実な諸問題は、分析哲学の伝統ではしばしばなおざりにされてきたが、ネーゲルはそれらの問題にほとんど素手で(つまり哲学的な伝統や術語に依拠することなく)取り組み、粘り強い哲学的議論を試みている。演習ではこの書の諸論文について、担当者の報告をふまえて、討議によって理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will read Thomas Nagel's MORTAL QUESTIONS. In the tradition of analytic philosophy, the serious problems that we encounter in our lives have often been neglected. Nagel attempts to clarify these problems in the manner of sober philosophical argumentation. In the seminar, students will be assigned to report on a chapter of the book.
5. 学修の到達目標：ネーゲルの哲学的論証を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To comprehend the philosophical arguments of Nagel.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 0 導入と担当決定
 - 1 死
 - 2 人生の無意味さ
 - 3 道徳における運の問題
 - 4 性的倒錯
 - 5 戦争と大量虐殺
 - 6 公的行為における無慈悲さ
 - 7 優先政策
 - 8 平等
 - 9 価値の分裂
 - 10 生物学の埒外にある倫理学
 - 11 大脳分離と意識の統一
 - 12 コウモリであるとはどのようなことか
 - 13 汎心論
 - 14 主観的と客観的(上記は目次。人数に応じて、何本かを選んで演習にとりあげる。)
8. 成績評価方法：報告、討議、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：トマス・ネーゲル『コウモリであるとはどのようなことか』永井均訳、勁草書房、1989 年
10. 授業時間外学習：教科書を繰り返し読む。英語の原書を読むと、もっと細部まで立体的に理解できる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：森 一郎

コード：LB55305, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ニーチェ『善悪の彼岸』精読

2. Course Title (授業題目)：Reading Nietzsche: Beyond Good and Evil

3. 授業の目的と概要：この授業では、ニーチェの最重要著作の一つである『善悪の彼岸』を精読し、哲学、倫理学、宗教の根本問題について考えていく。

*全員が教室に集まって対面授業を行ないたいが、それが難しい場合、
グーグルミートでリアルタイムオンライン授業を行なう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read one of Nietzsche's greatest works, Beyond Good and Evil, carefully and think about the basic problems of philosophy, ethics and religion.

*I would like to see all the class members at the real classroom (face to face),
but, if impossible, we use Google Meet (real-time online).

5. 学修の到達目標：1. 哲学の古典を精読する醍醐味を味わう

2. じっくりものを考えるということの重要性を理解する。

3. 哲学の歴史に学ぶことの重要性を理解する。

4. 今日的問題を根本的に掘り下げることの重要性を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To enjoy the pleasure of reading the philosophical classical texts.

2. To learn the significance of thinking radically.

3. To learn the significance of the history of philosophy.

4. To understand the significance of fundamental reflexions on modern

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：『善悪の彼岸』第3篇「宗教的なもの」(その1)

第3回：『善悪の彼岸』第3篇「宗教的なもの」(その2)

第4回：『善悪の彼岸』第3篇「宗教的なもの」(その3)

第5回：『善悪の彼岸』第3篇「宗教的なもの」(その4)

第6回：『善悪の彼岸』第4篇「箴言と間奏」(その1)

第7回：『善悪の彼岸』第4篇「箴言と間奏」(その2)

第8回：『善悪の彼岸』第4篇「箴言と間奏」(その3)

第9回：『善悪の彼岸』第4篇「箴言と間奏」(その4)

第10回：『善悪の彼岸』第5篇「道徳の自然誌」(その1)

第11回：『善悪の彼岸』第5篇「道徳の自然誌」(その2)

第12回：『善悪の彼岸』第5篇「道徳の自然誌」(その3)

第13回：『善悪の彼岸』第5篇「道徳の自然誌」(その4)

第14回：『善悪の彼岸』第5篇「道徳の自然誌」(その5)

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

平常点(出席・質疑応答への参加等)50%、学期末レポート50%で、総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書はとくに定めず、授業用に用意したプリントを配布(配信)し、それに沿って議論する。

参考書：

・Friedrich Nietzsche, *Jenseits von Gut und Boese*, in: *Kritische Studienausgabe* Bd. 5, dtv/ Grutyer, 1988

・Friedrich Nietzsche, *Jenseits von Gut und Boese. Zur Genealogie der Moral*, Kroener Taschenbuch, 1

10. 授業時間外学習：配布プリント、参考書、関連文献を熟読すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

使用言語：日本語/Language: Japanese

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB51308, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：プラトン『テアイテトス』を読む (1)

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Plato's THEAETETUS, 1

3. 授業の目的と概要：プラトン『テアイテトス』の冒頭から、原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進める。

あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す（わからなかった点はいくらでも質問してくれて結構）。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。二次文献も適宜参照する。ただし授業の進め方は、参加者と相談のうえ変更するかもしれない。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：We shall read Plato's THEAETETUS from the beginning.

First, the previously appointed attendant will translate a certain passage into Japanese and raise questions of any kind. Then all of us will discuss to get clear about the grammar and the philosophical content. We shall consult translations and commentaries and occasionally discuss secondary literature.

5. 学修の到達目標：今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の問題になっている事柄について論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To become able to explain the philosophical points in the passage that we shall have read. To become able to explain the details of the text of the passage.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『テアイテトス』篇は、知識（エピステーメー）とは何かを問うたプラトン後期の対話篇。

初回はイントロ。

最初はゆっくり（1回に7行ほどからスタート）、だんだんとペースを上げていき、最後は1回にOCTの1ページ半くらい進めるようになりたい（各回にどこまでと指定や予想をすることはできない。）

8. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%

9. 教科書および参考書：

テキスト・注釈はプリントを配布する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。

10. 授業時間外学習：次回に読む箇所の予習

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB61305, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：プラトン『テアイテトス』を読む (2)

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Plato's THEAETETUS, 2

3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、プラトン『テアイテトス』を原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進める。

あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す（わからなかった点はいくらでも質問してくれて結構）。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。二次文献も適宜参照する。ただし授業の進め方は、参加者と相談のうえ変更するかもしれない。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Following the previous semester, we shall continue to read Plato's SOPHIST.

First, the previously appointed attendant will translate a certain passage into Japanese and raise questions of any kind. Then all of us will discuss to get clear about the grammar and the philosophical content. We shall consult translations and commentaries and occasionally discuss secondary literature.

5. 学修の到達目標：今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の問題になっている事柄について論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To become able to explain the philosophical points in the passage that we shall have read. To become able to explain the details of the text of the passage.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『テアイテトス』篇は、「知識（エピステーメー）とは何か」を問うたプラトン後期の対話篇。

初回はイントロ。

最初はゆっくり（1回に7行ほどからスタート）、だんだんとペースを上げていき、最後は1回にOCTの1ページ半くらい進めるようになりたい（各回にどこまでと指定や予想をすることはできない。）

8. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%

9. 教科書および参考書：

テキスト・注釈はプリントを提供する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。

10. 授業時間外学習：次回に読む箇所の予習

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB53503, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究
2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason
3. 授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』(1781/87 年)をドイツ語原文で読む。今年度は、超越論的感性論 (tr. Aesthetik) の第 7 節「解明」と第 8 節「一般的註解」にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に応じてもらう。また、進行に応じて、関連するコメンタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：We will read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. In this year's course we will work on section 7 "Elucidation" and section 8 "General Observations" of the Transcendental Aesthetic. In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries or articles on the Aesthetic.
5. 学修の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1 感性論への導入
 - 2-5 解明
 - 6-9 一般的註解 (I)
 - 10-12 一般的註解 (II)
 - 13 一般的註解 (III)
 - 14-15 一般的註解 (IV)・結論
8. 成績評価方法：

訳読、報告、討議による。
9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
(他の箇所参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。)
10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：哲学思想演習／ Western Philosophical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LB63503, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『たんなる理性の限界内の宗教』研究
 2. Course Title (授業題目)：Kant's "Religion Within the Bounds of Bare Reason"
 3. 授業の目的と概要：カント『たんなる理性の限界内の宗教』(Die Religion innerhalb der Grenzen der bloßen Vernunft, 1794)をドイツ語原典で読む。今学期はその第一篇をなす「根源悪 (das radicale Böse)」論を検討する。根源悪とは、キリスト教の「原罪」論をカントが批判倫理学の観点から再構成したものである。演習では訳読に加え、コメントリーや研究文献の報告をしてもらう。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will read Kant's "Religion Within the Bounds of Bare Reason"(1794) in German. In this semester, we will focus on the first part of the book on the radical evil, which is Kant's reinterpretation of the Christian theory of original sin from the point of view of critical ethics. Students will translate the assigned texts, answer interpretative questions, and report on the commentary and research literature.
 5. 学修の到達目標：カントの宗教論第一篇の根源悪論を読み、その哲学的洞察を理解する。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understanding the philosophical insights of Kant's theory of radical evil
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 カントの宗教論への導入
 - 2 第1版序文
 - 3 第2版序文
 - 4-5 哲学的宗教論 第一篇 悪の原理が善の原理と並び住むことについて、あるいは人間本性のうちなる根源悪について
 - 6-7 註解
 - 8 I 人間本性のうちなる善への根源的素質について
 - 9 II 人間本性のうちなる悪への性癖について
 - 10-12 III 人間は生来悪である
 - 13 IV 人間本性における悪の起源について
 - 14-15 一般的註解 (善への根源的素質が力を回復することについて)
(第一篇から読み進める。進捗に応じてテキストの範囲はかわる。)
 8. 成績評価方法：
訳読、報告、討議、期末レポートによる。
 9. 教科書および参考書：
教科書 Immanuel Kant, Die Religion innerhalb der Grenzen der bloßen Vernunft, Philosophische Bibliothek 545, hrsg. von B. Stangneth, Felix Meiner Verlag, 2. Aufl., 2017. (ISBN: 978-3-7873-3314-1)
- 参考書 Stephen R. Palmquist, Comprehensive Commentary on Kant
10. 授業時間外学習：予習を欠かさず、テキストをよく読むこと。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：生命環境倫理学演習／ Bio-Environmental Ethics (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：原 壱

コード：LB55502, 科目ナンバリング：LHM-PHI314J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究倫理の哲学的基礎
2. Course Title (授業題目)：Philosophical Foundations of Research Ethics
3. 授業の目的と概要：研究倫理は医学・生命系の研究に課せられるべき倫理的制約やその根拠づけを検討する研究分野です。ただ、その理論的基礎については十分には明らかにされていません。そこで、この演習では、研究倫理の哲学的基礎を公共善に求める、Alex John London の著作、For the Common Good (2022) を購読します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Research ethics is a research field that examines the ethical restrictions that should be imposed on biomedical research. However, the theoretical basis has not been fully clarified. Therefore, in this course, we read Alex John London's book, For the Common Good (2022).
5. 学修の到達目標：研究倫理の概要とその理論的基礎を理解する。
哲学文献の読解に習熟する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand the outline of research ethics and its theoretical foundations. To become familiar with reading philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
Alex John London, 2022. For the Common Good. Oxford University Press を冒頭から読みます。授業形態としては、オンライン同期型にする予定です。毎回、ある程度の分量を読むために、自動翻訳の使用を認めます。また、テキストは授業時に配布します。
授業計画は以下の通りです。最初、研究倫理について解説した後（1回～3回授業）、Part I. DOES RESEARCH ETHICS REST ON A MISTAKE? を前から読んでいきます（4回～15回授業）。
8. 成績評価方法：
課題（60%）、レポート（40%）
9. 教科書および参考書：
Alex John London, 2022. For the Common Good. Oxford University Press
10. 授業時間外学習：書籍を読み、関連事項を調べ、文章にまとめておいてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし